

津幡町 くりから源平合戦

ゆかりの地 MAP



① 倶利伽羅古戦場
平安時代の後期、木曾義仲率いる源氏軍4万と、平維盛率いる平家軍7万の兵が戦った場所。



③ 倶利伽羅合戦図屏風 (倶利伽羅神社蔵)
殖生八幡宮に戦勝祈願する木曾義仲や源氏軍の戦法「火牛の計」など、倶利伽羅合戦の様子が鮮やかに描かれている。



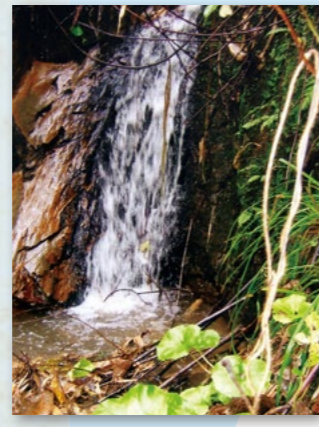
⑤ 倉見の湯座屋 (現 ウェルピア倉見)
平家の落人が、この源泉の辺りで亡くなった。その落人の血で源泉が赤く染まったと伝わる。



⑦ 王城
上洛を目指す木曾義仲が倶利伽羅合戦に勝利した後、河北潟や日本海が一望できるこの地で休息をとった。



⑧ 津幡城跡
倶利伽羅合戦の直前、平家軍は一時この地に陣を構えたと伝わる。現在は津幡小学校のグラウンド及び津幡ふるさと歴史館「れきしる」の敷地となっている。



④ 道の駅 倶利伽羅源平の郷
竹橋口の看板
倶利伽羅合戦で活躍した、津幡ゆかりの武将、井家二郎範方や津波田(津幡)三郎などが紹介されている。



⑥ げんとく坂
倶利伽羅合戦で敗れた平家武者の付き人「げんとく」が、隠れ穴から村里へ往來した坂と伝わっている。

② 兼平の湯
かつてこの地に湯座屋があり、倶利伽羅合戦で勝利した源氏の武将、今井兼平が矢傷を治したと伝えられている。



火牛のカーくん



よしなかくん



ともえちゃん



火牛のモーちゃん



⑨ 平知度の首塚
知度は、平清盛の七男。倶利伽羅合戦の翌朝、志雄合戦より加勢し、源氏軍との戦いに敗れてこの地、平谷にて自害した。



⑩ やたの湯
倶利伽羅合戦で敗れた平家の大将平維盛は、この地で傷を癒したと伝えられている。



⑪ 三国山権現
木曾義仲が戦勝報告に特使を派遣したと伝わる。合戦後、手厚く礼を尽くしたと言われており、今も権現様が祀られている。



⑫ 牛舞坊
河合谷地区に残る伝統芸能のひとつ。倶利伽羅合戦の「火牛の計」で徴発された牛の供養にちなんだ舞と伝わる。河合谷ふれあいセンターに現物が展示されている。



倶利伽羅合戦図屏風（倶利伽羅神社蔵） ※津幡町指定文化財

『倶利伽羅源平合戦』

石川県と富山県にまたがる倶利伽羅峠は、源氏と平家が覇権をかけて戦った場所です。

「源平盛衰記」によると、1183(寿永2)年5月11日、平家軍の総大将、平維盛は、倶利伽羅山中の猿ヶ馬場に本陣を敷いて、木曾義仲率いる源氏軍を待ちかまえていました。一方、義仲は、埴生八幡宮で戦勝祈願を行った後、平家の動きに合わせて味方の軍を六手に分けて配置させ、夜が更けるのを待っていました。

夜半、ほら貝や太鼓の音が響き渡り、北側の黒谷の方角から、角にたいまつを付けた五百頭もの牛と、それに呼応した六手の軍勢が、一斉に平家の陣に襲いかかりました。義仲が奇襲戦法「火牛の計」を図ったのです。昼間の進軍で疲れきっていた平家軍は、奇襲を受けて大混乱し、何もできずに追い詰められ、人馬もろとも地獄谷に落ちていきました。こうして義仲は大勝利を収め、この勢いのまま、京へと進みました。

NHK大河ドラマ「義仲と巴」誘致推進に関する津幡町の取り組み



源平合戦ゆかりの地看板の設置



町営バスのキャラクターラッピング



NHKへの要望活動



源平合戦を題材とした劇の披露（よしもとふるさと劇団）



小中学生絵画コンクールの実施

大河ドラマ誘致推進キャラクター



よしなかくん

ともえちゃん

火牛のカーくん

火牛のモーちゃん



大河ドラマ誘致推進シンポジウムの開催



歴史家による講演会の開催



各種イベントでの誘致活動PR



道の駅 倶利伽羅源平の郷に地元ゆかりの武将などを紹介する案内看板の設置



大河ドラマ誘致推進曲等の披露



大河ドラマ誘致推進グッズの作成



キャラクターポロシャツ

【お問い合わせ先】

津幡町大河ドラマ誘致推進協議会(津幡町産業振興課内)

〒929-0393 石川県河北郡津幡町字加賀爪二3番地

TEL.076-288-6704 FAX.076-288-6470

http://www.town.tsubata.lg.jp/division/sangyou/drama_yuuchi.html



津幡町

検索